

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

対話によるふりかえりで気づきを得る

安西 春樹

提案：対話の機会を持ち、ふりかえりを深めてはいかがですか。

安西：ボランティア養成講座からもう4年も経ちましたね。

皆川：そうですね。令和元年度末の修了式を迎える前にコロナが発生しましたが、その年から途切れることなく現在の活動につながっています。

今回、平成31年度（令和元年度）の中央区民カレッジ生涯学習サポーター―養成コース「コーディネートになるうー」（以下養成講座）を受講してその後の地域活動も含めてのふりかえりと、今現在の思いを受講生だった皆川玲さんにお話を伺う機会を設けました。

養成講座は、1年間講義と学習会の企画・運営の実習を通してボランティア活動・地域活動を学ぶ講座で、学習支援者として尚絅学院大学の松田道雄先生にご指導をいただきました。

皆川さんは、養成講座受講の際には、実習として世代間交流をテーマとした学習講座の企画・運営を経験し、修了後は、中央区立敬老館（いきいき館・区の高齢者福祉課の管轄施設）にて、ご自身の特技を生かし、筆文字講座「カラ1筆ペンで季節の一文字ハガキをつくらうー」の講師として活動されています。

本稿では、皆川さんとの対話から私自身のふりかえりの機会にしたいと思います。

養成講座をふりかえり、「学び」を考える。多様性とゆるい場

安西：養成講座を受講された方たちは「地域で活動するボランティア」を目指して集まりまして、いきなり松田先生の「お見せ出し」（各自興味のあるもの、好きなものを持ち寄り、モノを介して自己紹介を行う）の体験になりました。みなさん戸惑ったかと思えます。皆川：私はとても面白かったです。安西：ついていけない人もいました。

たね。「思った講座と違う」「私はノウハウを教わりに来たんだ」という。

皆川：それは養成講座に限らず、どのような講座でもあり得る感想だとは思いますが。

区民カレッジのような地域の生涯学習講座の役割は、誰に對しても開かれている万能な受け皿的なものなのかなと思います。目的やゴールも様々な方を受け入れられるように、多くの器を用意しているのだと感じています。

安西：養成講座の学び合いの中、皆川さんは色々な人と出会うことで変容した部分もあったのではと見受けられました。元々スキルをお持ちだったというのはもちろんですが、それを地域に還元するきっかけとして養成講座を経由したのかと。そこで「生涯学習」とか「社会教育」という世界を知り、ご自身の選択によって今の活動に至るのかなと勝手に納得しています。皆川：おっしゃる通りです。

安西：他の受講した方たちにも色々な選択肢があつて、何らかの形で地域につながっていきけるといふというのが養成講座のねらいだったんです。ただ、具体化するとか具現化するというのはなかなか大変ですよ。

今、地域で実際に活動されているというのは、たぶん、色々な人を介して行き着いたのかと思いますが、たどり着くのは結構大変だったろうなと感じています。

養成講座の中では、温度差はあれ「何か始めたい」という人たちが集まり、学び合うのですが、講座後は「良い講座だった〜」で終わってしまうこともあります。本当はもっと一人ひとりに合ったものを一緒に見つけられたらと思うのですが…

皆川：修了後のルートは、すでに中央区で用意している選択肢として複数あると思います。

私は「地域で講座を開きスキルを地元に戻元する」ということを修了後の目標としていました。その結果として「いきいき館」の講

師にたどり着いたのですが、それには養成講座で出会った人からのヒントや区の有償ボランティアについての情報など、出会いやつながりといった「ひと」との関わりによる部分は大きいと思います。

地域の生涯学習に期待して参加される方々は、技術や知識の向上を目指すだけでなく、人とつながってほしい、生きがいとして楽しめることがしたい、社会貢献をしたい、などの多様な目的があると思います。そんな様々な人に対応する「ゆるい場」を地域の生涯学習が担っていると感じます。

安西：どうしてもカチカチっ型にはめたくありませんが、人が集まるのは、だいたい「ゆるい場」ですもんね。皆川：そうですね。

安西：学習講座って何だろうって最近よく考えるんですよ。人（講師）の話聞いただけで終わっていくというものもあり、これ楽しいのかな？って。でも、それを望んでいる方も多くて。皆川：「学ぶ」ことって何だろう、

と考えると十人聞いたら十人違う答えが返ってくると思うし、もしかしたら地域でも違うと思えます。スキルアップしたいという人はもちろんいるでしょうけれど、一方でそんなに堅苦しくなくても人と集まって知的欲求を満たされれば良いという方もいると思えます。安西：なんとなく通える場があつて…。皆川：そうですね、面白いお話を聴ければ十分という方もいらっしゃるのでは。

安西：一方、養成講座は「地域で活躍しましょう」というお題目がありますよね。

松田先生に担当していただいた講座も、知らない者同士で集まり、そこから何かを生み出す。だからこそコミュニケーションをとっていくのが大切ですよねと丁寧に進めるのですが、講座が終わると同じ事が出来なくなってしまう。難しいですよ。

皆川：何事も継続させていくことは難しいですね。

養成講座の実習を通して、地域の生涯学習に参加される方は多様なバックグラウンドをお持ちで、そこはグループワークの強みだと感じました。同時に参加されている方々の目的やゴールが多様だということも実感しました。修了後の個人個人のゴールが異なるので、結果として、実習と同じことの継続は難しいのではないのでしょうか。

安西：違いを埋めるのにある程度の無駄があつて良いと思うんですよ。ファンの方にも怒られると思いますが、松田先生の講義で一見、無駄の塊だったと思えます。良い意味で（笑）皆川：私はとても良い講義だったと感謝しています（笑）。

安西：楽しいなど思えるところに行くまでが大変で、講座の中で一見無駄に見えることを「まずやってみましょう」ってなった時に、こんなことして何になるの？と思ってしまうたら最後。「お見せ出し」がまさにそうでした。皆川：当時の講座でも「お見せ出

し」というお題だけでほとんど説明がなく、受講者みんなでモヤモヤしていました。ただ、それも含めて面白かったです。

安西・乗った人にとっては「面白い」に転換できたと思えますが、やらなきゃいけないって考えて、でも上手く出来ないとなつた人にとっては、どうしてこんなことをしなきゃいけないのって思いが勝ってしまった。

社会教育の本来の形と講座という形のギャップなのかなと思えます。本来なら自分たちが必要とするもの、やりたいと思うことを社会の中で創り出す活動で、そのきっかけとして講座の形があるのですが、その講座に出さなければ自分自動的成長するという図式を作ってしまうと、つらいですね。

皆川・語学や資格の講座で考えても、能動的な努力が必要で、通っただけで習得できるものではないですね。

安西・そこがどうしてか先生のありがたい話を聞いたら自分がパワ

アップするという図式が結構定着してますよね。有名人が来て話をするってみんな喜ぶじゃないですか、なぜだろう？って思ってます。

皆川・繰返しになります。区民カレッジに参加される方の目的は多種多様だと感じますので、企画される側も様々な切り口で受け皿をつくられて行く方向なのかなと想像します。区民カレッジを利用するコアとなる世代が移動することによって、ニーズも変わっていくのかもしれない。

養成講座の話に戻ると、私の時にはありませんでしたが、自分ではありましたが、自分では講座の講師をやりたいという人向けにも、今は区でルートを整えてくれました。いくつもの選択肢があることはとても恵まれた環境です。

安西・選択肢という意味では数は大切だと思います。一方、どうして公で社会教育・生涯学習の事業を行っているのかという部分は、受講する一人ひとりに意識を持ってもらうことが大切だと思います。

皆川さんのように、何かしらのきっかけで触れてみて、実践してみても、ちょっと振り返った時に生涯学習・社会教育ってこういうこと？ってなることが正解なのかなって思います。時間がかかります！

養成講座受講の目的と地域に目を向けるきっかけ

皆川・養成講座は、地域に根差して教育や社会活動に携われることを期待して受講しました。また、会社という組織で長年働いてきたので、それ以外のネットワークづくり、地域コミュニティや地元とのつながりを広げるきっかけとして受講しました。

安西・新しく地域に目を向けた人がなかなか地域のコミュニティに入れないというのがあるのです。その人たちにとっては、まず地域に関わる方法や機会を知りたいという思いもあるのだと思えます。いきなり「町会に入りましょう」、子どもが学校に上がったからPTA、というだけでなく、何か

うまい入り方というか、接続の仕方があるといいなと思います。

皆川・PTAは順番が来ればやっていましたし、区の施設なども子どもの関係で利用するなど、子どもを紹介しての地域コミュニティはつくりやすかったとは思いますが。例えば単身世帯の会社勤めだと日常の中で地域コミュニティを意識することは少ないと気づきました。子育て後、リタイア後もそうですが、働き盛りの人も誰にでも地域コミュニティへ目を向けるなにかしらの入り口があると良いですね。また特に若い世代の地域コミュニティへの参加促進はどの組織でも課題だと感じます。

安西・学習講座をはじめとした生涯学習のきっかけづくりも、地域の入口として機能すると嬉しいですね。

これから若い世代を取り入れることが大切

安西・地域活動も人によつてはこつちでダメ、あつちでもダメ……という人も出てきます。人間関係がうまく進めるための練習を講座の中に所どころ組み入れてはいるのですが、それでも何でこんなことさせるんだというような声は出ますね。

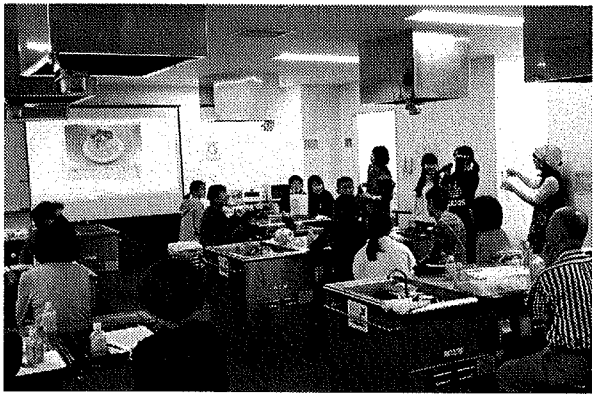
皆川・Z世代と言われる若い世代は、人とのつながりも比較的ゆるく、寛容につながる状態を好むと聞きます。これからはそういった若い世代にも地域コミュニティに参画してもらおうという工夫が重要になるのではないのでしょうか。次世代の育成を怠ると社会教育という存在自体が危ういように感じます。

安西・そうですね、社会教育事業自体が高齢者のための……みたいになつてしまっていますね。

皆川・それも大切な事ですが、若い人も巻き込んで、社会教育事業の問題を一緒に考えていく、若い柔軟なアイデアを反映していかないものかと思えます。そういう点では、例えば年齢制限を設け若い世代限定でネットワークをつくるのも一つ、地域の問題解決や多世代交流について考えてもらう

ような試みがあつても良いのではないのでしょうか。私達には考え付かないようなアイデアやリソースの活用方法が出てくるかもしれません。

世代間のコミュニケーション



養成講座の様子 実習「世代間交流」

生涯学習コーディネーター養成講座

「おこと」でめいめいの学びを分かち合おう！

時間：午後2時～4時30分

場所：新橋区生涯学習センター

定員：12名(男女別)

定価：2000円(教材費別)

受講料：2400円

日次	日次	講座内容(予定)
第1回	5/23(木)	はじめまして！生涯学習って何？【対話式授業で「しあがり」】
第2回	6/0(木)	まずは体験！みんながアイデア出し【グループワークで「しあがり」】
第3回	6/20(木)	お話し合い！生涯学習の現状【プレゼンテーションで「あわす」】
第4回	7/4(木)	コミュニケーション講座！【つながるためのプレゼンテーション】
第5回	7/18(木)	広域研修会！【「目まぐるしく変わる」変化力】
第6回	8/8(木)	企業研修会！【「変化」をつかむための「アジャイル」】
第7回	8/22(木)	企業研修会！【「変化」をつかむための「アジャイル」】
第8回	9/5(木)	研修！企業研修会！【「変化」をつかむための「アジャイル」】
第9回	9/19(木)	研修！企業研修会！【「変化」をつかむための「アジャイル」】
第10回	10/3(木)	相互発表会！お話し合い！【「変化」をつかむための「アジャイル」】
第11回	10/17(木)	まとめ！学びの振り返り！【「変化」をつかむための「アジャイル」】
第12回	11/7(木)	研修！企業研修会！【「変化」をつかむための「アジャイル」】

申し込み方法

はがきにて

2/28(木)

【申し込み・問い合わせ先】中央区民部文化・生涯学習課生涯学習係

生涯学習コーディネーター養成講座

「おこと」でめいめいの学びを分かち合おう！

「はなす」「あわせる」「つなげる」「あわす」「つなげる」「あわす」「つなげる」「あわす」

つなぐ原理を体験し、生活・仕事、さまざまな分野でコーディネーター役をはたせる力をつける！

学習支援案内 松田道雄さん

【申し込み・問い合わせ先】中央区民部文化・生涯学習課生涯学習係

した。一方で先ほどもお話ししましたが、実習時は修了証という同じ目的・ゴールを目指すので異世代で結束しますが、継続させるにはその後の目的やゴール設定に依存するのではないのでしょうか。

令和二年度の養成講座修了生がつくっている勉強会は、その後いかがですか。

安西…「きちんと人の話を聞きましよう」の実践の場として集まっています、その中で情報交換というのが自然と生まれてきています。

先日は、人形町のべつたら市が今年はあるということから、LINEでそれぞれの持っている情報を交換し合ったり、「行ってきました」とか「今年はこの感じでした」とか地域の情報を共有が出来ました。他にも、各自が所属している団体で、今度イベントがあるので手伝ってくれる人を募集しますとか、すぐくゆるくつながらを持ちつつ月に1回集まっているんです。つい先日、ようやくメンバーのLINEの利用率が100%になりました、ちょっとした

連絡や情報交換が全員で共有できる形になりました。

なかなかこういう風に他者の話を聴き、自分の話を話す場って、そうそうないよねとお互い気づくんですよね。

皆川…安西さんが作りたいと思っている「ゆるい場」として理想的なのではないですか。

安西…あとは、何かしら外に向けた発信ができたらいいなと思ってる所です。そうなったら、次は世代の壁をどんどん壊していきたいので、子どもも高齢者も誰でも出入り自由の活動に進められればと思っています。メンバーを区切らない、壁を作らない中で社会教育的な活動ができたらいいなと思っています。

ポジティブにふりかえることが大切

安西…養成講座受講の際に書いていただいた修了時の作文がありましたが、振り返ってみてこんなこと思っていたんだということなどありました？

と思います。一方、講師の立場に立つと、説明しすぎないというのは我慢があることなので、すごいなと思います。

安西…ボンと投げられて、考えなといけない。その練習ですね。経験していかないとなじめない部分がありますよね。気づいたところがスタートラインというか。

皆川…受講した養成講座は、昨今の学校現場で取り入れられているいわゆるアクティブラーニング(能動型学習法)型の講義なので馴染みのない方も多かったと思います。

安西…それでも、実習が成功して「良かったね」となりましたが、ふりかえりが浅くなってしまった感はありません。

皆川…年末の実習後、コロナ禍に突入し対面での反省会が開けませんでした。紙面でのふりかえりは、実習は無事終了したにも関わらず思いのほか自己反省的なネガティブなコメントを出される方もあり戸惑いました。対面でのコミュニケーションがあれば違ったのかな

皆川…これは安西さんから声をかけていただくと、いつも読み返しています。初心忘るべからず、という気持ちになります。

安西…講座の担当者としてはすぐ嬉しいですね。次から次へとこの世の中ですから、私も含め振り返らない人は振り返らないんですよ。

皆川…自分の学習の仕方として「やりっぱなし」が一番もったいないことだと思おうので、振り返り、復習、は大切ですね(笑)。

養成講座の時は、毎回ふりかえりシートをもらい、その中に「自分の学びを他者に与えたか」という項目がありました。これにはとても感銘をうけました。自分が学んで満足というだけでなく、相手にもわかりやすく伝えられたか、相手へさりげなく気付けさせることができたか。次回に繋げられるよう講座後に書き出しました。多様な地域活動や生涯学習の中では大事な要素だと感じました。

安西…実習の時もおっしゃってましたね。どうやって気づいてもら

とも思います。

安西…何か発言するといった時に、あらさがしになりがちな傾向がありますね。無事終わって良かったねーとなっていたのに、すべて忘れて、あれはこうだった、あれしなきゃいけないかったという風になっちゃいます。反省会という名前がネガティブなことを言う会になっっているんですかね。

皆川…今後に活かす反省コメントのマナー、気持ちよく修了させるルール、のような事前案内を開催側からレクチャーしても良いかもしれませんね(笑)。

安西…反省会は、感謝の会とか名称を変えないといけないかなとも思いました。

時間を空けちゃうとさらに凝縮して。だから打ち上げみたいに当日やってしまうのが一番良いような気がします。当日の勢いで反省すれば、失敗もポジティブになれそう。

皆川…まったく同感です(笑)。
安西…世代間交流の実習でキーキを作るというのも、楽しかったで

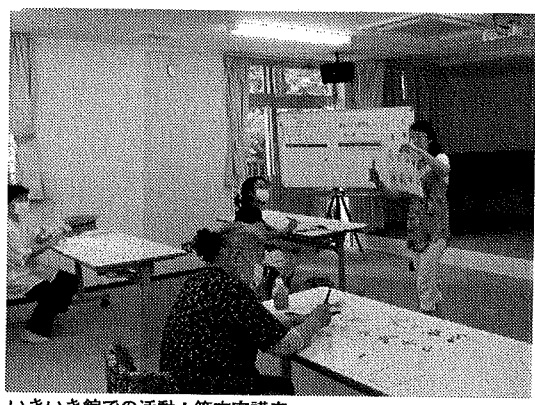
うかがうのがすごく難しく、直接言葉で言っただけでは本来の意味が伝わらない。その人自身が気づくことではじめて伝わる。そのためには色々な角度から手を変え品を変えアプローチしていかなければならぬ。コミュニケーションを成立させるって大変だなと思います。

皆川…「あ、そうか」と人が気が付いた瞬間は、お互い気持ちが良いですよ。パッと顔も輝く。また、自分で気付いた方が満足度も高いと思います。教え方が上手な先生、良い教師とは「気付かせる」先生だと思います。普段のコミュニケーションでもそれができる人は、とても寛容で、自己満足な教えに陥らない感じがします。

「気付かせる」ためには定型があるわけではなく、自分なりに様々な工夫すること自体が楽しい、そう思うことが大切なのではないのでしょうか。そのことに気が付いたのは、先の「ふりかえりシート」と「お見せ出し」でした。

すよね。参加した人たちもうまくいかないところは助け舟を出し合って、スタッフだけでなく参加した人たちみんなで自主的に作っていた感じがありましたね。世代間交流と合わせて理想的な学び合いの場になっていたのかなと思います。

皆川…良かったと思います。



いきいき館での活動：筆文字講座

養成講座後のつきあい
コロナの時期を経験して
皆川…養成講座への参加をきっかけに、今でもお付き合いが続いて

いるのは本当にありがたいことです。中央区の生涯学習講座でなければ出逢えなかつた多様なバックグラウンドの方々とのネットワークが様々な形で続いています。

安西..コロナの中、活動で気づいたことつてありますか。
皆川..今まで行き過ぎていた部分や慌ただしくしていた部分を冷静に振り返ることができた期間だつたと思います。

安西..大事なものとそれほどでもないものを振り分けられる機会にはなつたのかなと。
皆川..コロナ禍の地域活動で思い出されるのは、書道の活動と、『いきいき館』での活動のふたつです。

『ブーケ』を活動拠点とする書道の会では、施設閉鎖期間は師匠が通信添削に切り替えてくれたため創作活動を続けることができました。創作活動はどんなに心が塞いでいても豊かな充実した時間を与えてくれることを実感しました。これは、自

分が担当するアート系の講座の存在理由として強く意識することとなりました。

『いきいき館』からは、担当講座の動画をつくりませんかというお話がありました。コロナが発生した直後の春、学校や公共施設が閉鎖を続けていた時です。動画制作を仕事とされている方がいるわけでなく、企画も撮影も全てスタッフの方々の手作りです。コロナ禍で館へ通えない利用者の方へ向けて、何か自分たちにできる事はないかとチャレンジされる姿に打たれました。動画は私も初めてでしたが「協力しよう」という気持ちになりました。加えて当日の現場が、皆とても楽しそうなワクワクとした雰囲気だつたのが印象的でした。そこで学んだことは、失敗を恐れず、チャレンジする大切さです。コロナ前までは、無意識のうちに失敗してはいけない、無駄があつてはいけない、と身を固くして行動していたと思います。逆にコロナ禍

では、失敗しても良いじゃないか、今できることをやってみよう、というおらかな気持ちで何かを生み出すのに大切だと気が付かされました。

安西..次から次に来るものをこなすというのが少し和らいで、リセットできた部分はありますね。
皆川..また日常に戻りつつある中でこの教訓を忘れずに、とにかく一直線で、最短で、効率良くという思考に戻らないように気をつけなくてはと思います。
安西..しかも正しく。何が正しいのかつていう話ですけど。

皆川..そうですね。何が正しいのか自分で考えることの大切さ、環境・文化・生物多様性の大切さ、次世代の意見に耳を傾ける大切さ、などコロナ禍で改めてキーワードになつたのではないのでしょうか。

安西..まず、若い希望ですね。
皆川..若い世代と一体となった活動というのは、どのような組織でも課題として取り上げられ

ますが、具体的な仕組みづくりは難しいようですね。地域の生涯学習活動においても失敗を恐れないチャレンジ精神を期待したいところです(笑)。

対話による気づき

安西..そう言えば、松田先生の所の学生とオンライン対話の場にも参加もされましたよね。

皆川..大学生との意見交換は学ぶところが多く楽しかつたです。コミュニケーションを大切にする双方向の講座づくり、参加される一人一人に届く松田先生の講義は、私の講座づくりにとても参考になっています。私が担当する『カラー筆ペンで季節の一文字ハガキをつくらう!』の講座は、時間配分や内容構成、教材等、一任されています。館へ来る方、講座へ参加される方の目的やスキル、興味の方向性は様々です。多くの参加者の方に楽しんでもらえることを考え、工夫することが毎回の楽しみです。

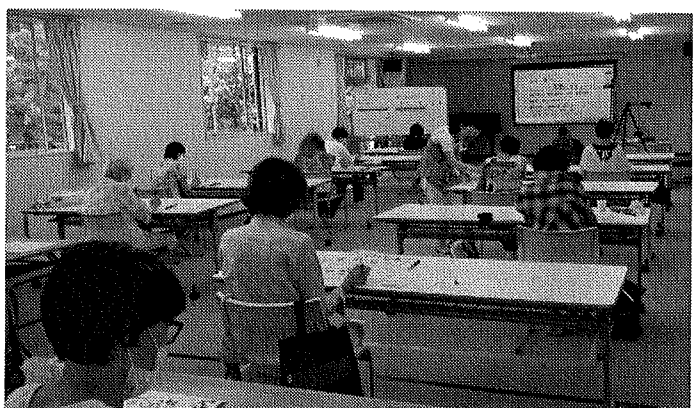
その他にも講座づくりでは心に留めている考え方があります。以前ひとから教えてもらったのですが、世界で一番でなくとも、得意なものや掛け合わせると、その人独自の「一番」になるという発想です。例えば、ある子が、クラスで絵が一番上手いとい

します。絵の上手さは学校で一番かどうかは分からない。けれど、英語や体操も好きで得意です。ひとつだけでは学校で一番のものはないかもしれないけれど、絵×英語×体操を掛け合わせると学校で唯一無二の個性になる。今の自分の持っているものが大きくなって、それを掛け合わせていけばその人のパーソナリティとして大きく輝くというものです。

私の講座でいえば、私は書の大家でないけれど、大学で学んだ美術の知識や職業人としての経験、博物館学芸員の資格など、複数のスキルを活かして独自の『カラーペンによる一文字ハガキ』という、目的や興味が様々



いきいき館での活動：筆文字講座



な参加者の方が楽しめるアート系講座をつくりました。ハガキづくりだけでなく、スライドを使ったアート豆知識や絵本紹介など、新しい気付きに繋がるシードをちりばめています。
安西..結局、養成講座で集まった人たちもそれぞれ色々なものを持っていて、それを持ち寄って何か始めるというときに相応なパワーになるっていうことですよ。

皆川..組織として考えるとおっしゃる通りだと思います。養成講座では「私は何にもできない」という人が必ず出ますけど、「お話を聞いているとこれは得意ですよ」と引き出す役割も生まれてきたりしますね。

安西..実習の時も一人ひとり良い味を出している、全体の成功になつていったと思います。全体で成功体験となつた時に、また一人ひとりに成功体験として還元されていくということです。皆川..それぞれの人にできるこ

とがあるという話は、松田先生もメンバーの話をよく聞こうというのと一緒に講座で話していましたね。

「お見せ出し」の時に、それぞれの得意分野とかキャラクターが分かつたので、ヒントになりましたよね。モノを介してパーソナリティを可視化するということが、お話をその人がどう解釈するかという考え方もわかりました。

安西..「お見せ出し」つて、上手く出来ているんですね。4年経つて今更気づきました(笑)。

皆川..人と話すことで発見をする、気づくということがあります。私も今話をしていて、先のパーソナリティの話は、組織においても当てはまる考えだと教えられました。

安西..安西..人と話してみないと自分自身の納得につながらないですよ。

皆川..「対話」は時代のキーワードとしてよく目にします。ひと昔前に戻るようですけど、そ

れをおざなりにしてきたのがコロナ前ではないでしょうか。「対話」は時間がかかるし、無駄が多いようですけれど、古代ギリシャでもそうであったように人の営みの基本として大切だと感じます。

安西..対話をするためには、それなりの基本的なコミュニケーションを取ってこないかと。皆さんとここまで話せるにはやはり時間がかかっていますよね。単に講座やりました。担当者です。受講生です。だけでは成り立たないような気がします。

皆川..ありがたいことです。

安西..そういう対話を増やしていく努力はさぼってちゃダメですね。対話で人はつながっていく、地域がつながっていくというね。

皆川..はい。会って話す大切さを感じます。

安西..それを気づかせてくれたのもコロナだという面もありますね。

皆川..コロナ期間で、少しでも

人と会えそうな時期は、普段はあまり会わない人とでも、お互い連絡とって会う努力をしましょう。いつまた会えなくなるかわからないという危機感でしょうか。オンラインも便利ですが、空気が伝わらないですね。ツールとして良い面を活用しつつ、会って対話することの大切さを実感した期間です。

安西..今回のキーワードは、無駄と希望と対話ですかね。

今回は、2時間ほど皆川さんと話をし、自分自身も多くの気づきをいただきました。時には立ち止まって、じっくりと他者との対話の時間を設けてはいかがでしょうか。

安西春樹

(あんざい・はるぎ)

中央区区民部文化・生涯学習課
総括生涯学習指導員

社会教育編集部が提案する役に立つ社会教育書籍

行政関係者のための 新訂 入門・生涯学習政策

著/岡本 薫 2022年2月28日発行
A5判 112頁 定価1320円
送料/215円 ISBN-7937-0129-9 C3037

[生涯学習・社会教育行政の基礎・基本]

生涯学習とは？

なぜ生涯学習社会が必要か？

生涯学習の振興理由

生涯学習と行政の役割

生涯学習と学校の役割

選択と自己責任

スポーツ・文化・ボランティア活動と生涯学習

ご注文は書店または (一財) 日本青年館 編集部まで
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
TEL 03 (6452) 9021 FAX 03 (6452) 9026



改訂 社会教育法解説

井内慶次郎 定価1100円 B6判
山本恒夫 共著 128ページ送料/215円
浅井経子 ISBN 978-4-7937-0120-7

1949年6月10日の社会教育法の起草者
井内慶次郎氏執筆の法の趣旨を確認したい

(目次)
まえがき 再改訂にあたって
序論：社会教育法六十年
社会教育法の制定
社会教育法の一部改正
昭和二十六年の改正 昭和三十四年の改正
平成十一年の改正 平成十三年の改正
平成二十年の改正
生涯教育から生涯学習へ
平成四年生涯学習審議会答申
平成十年生涯学習審議会答申 平成二十年中央教育審議会答申
本論：社会教育法の解説
付録 新旧対照表 関係用語の解説

